

【優秀賞】愛媛新聞社賞

「誰とでも仲良くしなさいという人たちへ」

伊方町立伊方中学校 3年 梶谷 弦志

「僕は、あなたが嫌いです。」

僕は、勇気を出して相手に伝えたことがあります。誰とでも仲良くすることは、みんなにとって簡単にできることなのではないでしょうか。

僕は、小学生のころから野球に情熱を注いできました。だからこそ、大切な大会前日に「お前ら、負けるやろ。」と友人から言われた時は、とても傷付きました。今まで頑張ってきた苦しい練習を全て否定されたように感じたからです。彼の言葉に対して「絶対に勝つ。」と、言い返しましたが、結果はタイブレークの末のサヨナラ負けでした。その時僕は、大号泣しました。負けた悔しさだけでなく、転校する友人との最後の試合だったということや仲間だと思っていた友人からひどいことを言われた悲しみも合わさっていたからです。

僕は、このまま何も無かったかのように振舞うことを選びませんでした。「あなたが嫌いです。」と、メッセージを送りました。もちろん、この一言だけではなかったので、相手から丁寧な謝罪の言葉をもらいました。この出来事があった後、相手への苦手意識を自覚しました。どうしたらこれまでのような友人関係でいられるのかを互いに伝えました。しばらくは、気を付けて生活してくれていましたが、時間が経つにつれて意識が薄れてきたようです。僕にとって不快に感じることを言うことが増えたので、相手に対する苦手意識がさらに強くなりました。また以前のように自分の気持ちを伝えるという方法もありましたが、二度目はしませんでした。その代わりに別の方法で友人との距離を適切にするための方法を探りたかったからです。

人間関係についての対処方法についてたくさん調べました。「嫌いな人と関わらない方法」や「嫌なことをされた時の対処法」など、人間関係に関する啓発的なサイトをいつも探していました。調べた内容を試してもみましたが、残念ながら僕にとっては、どの方法も効果的ではありませんでした。

ある日の授業で「人間は、誰しも嫌いな人や苦手な人はいます。悪い所だけでなく、良いところも探してみてください。」と言われました。次に僕は、それを試してみようと思いました。初めは効果的だと感じましたが、それでも相手への苦手意識が無くなることはありませんでした。たくさん悩んだ後、突然に吹っ切

れた気持ちになりました。自分のこの感情とうまく付き合っていくしかない
心の整理がついたからです。

僕が調べて読んだ情報は、必ずと言っていいほど「無視をするのはいけません。」と書いていました。嫌なことを言ってくる友人を自分の心の平和のために無視したい気持ちでいっぱいだったので、納得いかずにさらに調べてみました。「無視をするということは、相手を傷つけることになります。自分は傷つけられたとしても相手を傷つけないようにするためだよ。」と、書いてありました。「相手に傷つけられたことは、相手を傷つけてもいい理由にはならない」という言葉が心の中にずっと入ってきました。共感しました。もやもやしていた気持ちの正体は、僕自身が誰かを傷つける人になりたくなかったのだということです。その友人は、僕に悪口や気に障ることをよく言ってきました。自分を基準に考えるため、「自分だったら、こんなことを言われても大丈夫。」「自分だったら、厳しく言ってもらった方が余計にやる気が出る。」という考えを持っているようでした。お互いを分かり合うためには、自分を基準にして考えるのではなく、目の前にいる相手を理解して接することが大切だと思います。僕は、その人ではないので、野球の苦しい練習を否定されるようなことは言われなくなかったし、誰かの悪口を聞くのも好きではありません。僕も相手のことは分からないし、相手も僕のこととは分かりません。人として大切なのは、分かろうとすることだと思います。僕がその人のいいところ探しをして気付いたのは、決して僕を傷つけようという悪意の気持ちを持っているわけではないということです。ただ、お互いの価値観が違いすぎて、苦手だし、できれば一緒にもいたくないし、話しかけても来てほしくないという感情が湧き出ることもあります。そんな時の僕自身の大切なことは、相手に何を言われたとしても、どれだけ冷静でいられるかということだと思っています。これからの人生の中でも、本当に困ったときは、身近な人に相談して、頼ろうと思っています。一人で抱え込んだら、いつか心がつぶれてしまうかもしれないからです。

僕は、こうして試行錯誤しながら友人との関わり方について学びました。以前よりも大人になった自分を感じました。これまでも、これからも、どんなに苦手な相手に、嫌だなという気持ちを持ちながらも、適切な距離感をもって礼儀正しく接していきたいです。